

事業名：生ごみ減量化推進事業

廃棄物対策課 主査（資源化）

政策	01 環境と調和する都市の構築								
施策	01 循環型社会の形成								
基本事業	01 ごみの発生・排出の抑制								
開始年度	平成12年度	終了年度	—	実施計画 事業認定	対象	会計区分	一般会計	補助金	奨励的補助

事務事業の目的と成果	
対象（誰、何に対して事業を行うのか）	
世帯	
手段（事務事業の内容、やり方）	
①電気式生ごみ処理機購入に対し、購入価格の3分の1（限度額2万円）を助成する。 ②「江別市生ごみ堆肥化容器購入助成金交付要綱」に基づき、堆肥化容器（段ボール式、密閉式、コンポスト）購入に対し、一律1,000円を助成し、合わせて講習会等を実施する。 【25年度からの手段 ①生ごみ水切り器をモニター配布し、合わせて使用効果等にかかるアンケート調査を実施する。 ②は継続】	
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）	
生ごみの水切り及び堆肥化等によるごみ減量についてPRするとともに、徐々に実施する世帯を増やし、家庭系可燃ごみの排出量削減に対する意識を高める。	

指標・事業費の推移						
区分		単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度当初
対象指標1	世帯数	世帯	53,923	54,581	54,921	54,921
対象指標2						
活動指標1	電気式生ごみ処理機助成件数【25年度より 生ごみ水切り器モニター配布件数】	件	5	9	500	200
活動指標2	生ごみ堆肥化容器助成件数	件	83	152	115	200
成果指標1	電気式生ごみ処理機助成申請件数【25年度より 生ごみ水切り器モニター実施世帯数】	件【世帯】	6	10	500	—
成果指標2	生ごみ堆肥化容器助成申請件数	件	95	176	136	—
事業費(A)		千円	295	472	532	472
正職員人件費(B)		千円	10,434	10,421	7,813	7,824
総事業費(A+B)		千円	10,729	10,893	8,345	8,296

事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
25年度 ①生ごみ水切り器を無料でモニター配布し、合わせて使用効果等に係るアンケート調査を実施した。 ②堆肥化容器（段ボール式、密閉式、コンポスト）購入に対し、一律1,000円を助成し、合わせて講習会等を実施した。	・生ごみ水切り器配布経費 224千円 ・ごみ減量化推進啓発業務委託料 100千円 ・生ごみ堆肥化容器購入助成金 115千円

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
家庭系可燃ごみの中で大きな割合を占める生ごみの減量化及び排出量削減に対する意識の高揚を図ることを目的に開始した。	
事業を取り巻く環境変化	
電気式処理機について、これまで530台を助成しており、意欲のある市民は既に購入し実施しているものと考えられること、及び購入費用、維持管理費用が高額である等の理由から平成24年度をもって助成を終了した。	

平成25年度の実績による担当課の評価（平成26年度7月時点）

(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

<input checked="" type="radio"/> 妥当である <input type="radio"/> 妥当性が低い	理由 根拠	家庭の可燃ごみの約4割を占める生ごみの減量施策であり、行政の役割として妥当である。

(2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

<input checked="" type="radio"/> 貢献度大きい <input type="radio"/> 貢献度ふつう <input type="radio"/> 貢献度小さい <input type="radio"/> 基礎的事務事業	理由 根拠	生ごみ発生源である各家庭に、体験的に減量化意識を持ってもらい、結果として生ごみの発生抑制につながるパイロット事業として、貢献度は大きい。

(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？

<input type="radio"/> 上がっている <input checked="" type="radio"/> どちらかといえば上がっている <input type="radio"/> 上がらない	理由 根拠	堆肥化容器について、22年度から無料配布を中止し、自己負担が伴う購入助成方式に変更したところ、申請が一時減少したことから、啓発受託者の女性団体協議会による生ごみ堆肥化講習会の開催回数の増加及び市による継続的な啓発活動を行っている。市民の意識変化を促しながら進める事業であり、継続的かつ地道な事業展開が必要である。

(4) 成果が向上する余地（可能性）がありますか？その理由は何ですか？

<input checked="" type="radio"/> 成果向上余地 大 <input type="radio"/> 成果向上余地 中 <input type="radio"/> 成果向上余地 小・なし	理由 根拠	堆肥化容器について普及率はいまだに低く、成果向上余地は大きいと判断する。ただし、市民のごみ減量意識に訴えかける必要があり、急速に普及する性格のものではないので、地道な啓発活動が求められる。

(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算+所要時間）を削減する方法はありますか？

<input type="radio"/> ある <input checked="" type="radio"/> なし	理由 根拠	生ごみ減量について啓発等に要する必要最小限の経費を計上しているため、コスト削減の余地はない。